

第1回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和元年8月21日(水) 10:00～11:30

2 場 所 伝国の杜 大会議室

3 出席委員

赤井直美委員、大和田浩子委員、尾形健明委員、鹿俣貴裕委員、小関洋子委員、佐藤和子委員、柴田正孝委員、白石祥和委員、須藤昌志委員、須藤正彦委員、清野雅好委員、高澤由美委員、長谷川健委員、松田智博委員、吉澤彰浩委員、渡邊修一委員 以上16名

(相田哲郎委員は欠席)

事務局

市長、総務部長、企画調整部長、健康福祉部長、産業部長、建設部長、会計管理者、上下水道部長、市病事務局長、教育管理部長、教育指導部長、環境生活課長(市民環境部長代理)、議会事務局次長(議会事務局長代理)

総合政策課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

(1) 開会

(2) 委嘱状交付

(3) 市長あいさつ(要旨)

総合計画の前期5年間の計画が令和2年度で終了することから、後半5年間の本市のまちづくりについて、審議会委員の皆様にご意見をいただきながら、しっかりとした総合計画を策定して参りたい。

前期計画終了まで1年半余りだが、課題となっていた市立病院改築、小中学校の統廃合・適正規模適正配置にしっかりと取組み、東北中央自動車道の開通、道の駅オープンなどにより、一定程度の賑わいを創出することができた。市外からの企業誘致も進んでおり、そういった好影響から税収が年々増加している。市役所建替・病院建設・学校統廃合が控えるなど楽な財政状況でないが、歳入を確保しながら、市民の皆様が求めている課題に対して後期計画の中で対応していきたい。

また、米沢市が掲げている置賜定住自立圏構想に基づき、置賜の中心都市として、他市へ影響を及ぼせるような地域づくりをしていく必要がある。行政課題に対しては、民間団体との連携・支援をしっかりと進めることも大切だ。様々な課題はあるが、委員の皆様にご意見をもらい、計画の策定にご尽力を賜るよう心よりお願い申し上げます。

(4) 委員自己紹介及び事務局等紹介

(各委員自己紹介)

(5) 会長選出

(事務局提案により、尾形健明委員が会長として選出され、委員の承認を得た。)

(会長中央の席へ移動)

(6) 会長あいさつ(要旨)及び会長代理の氏名

会長という重責を受け緊張しているが、ぜひ皆様のご協力を得て何とか諮問に対す

る答申を作っていききたいと思う。平成 25 年の総合計画策定時にも会長を務め、目指す将来像の「ひとが輝き創造し続ける学園都市・米沢」に「学園都市」という言葉を入れさせてもらった。米沢市ならではの特殊解を求め、米沢市の特徴を出すべきとの思いからである。米沢には、3つの大学があり、米沢市の人口の5%が大学生であるため、ここを使わなければならないと思い、提案させてもらった。山形大学を通じて企業誘致を進めるなど、うまく大学を使っているという印象がある。今後も学園都市機能をうまく活用し、発展させていって欲しい。

私は、昭和50年に米沢に来て以来、山形大学工学部に在籍し、平成25年に定年退職し、そのまま審議会の会長を仰せつかった。現職（山形県立産業技術短期大学校長）は3年目となり、毎年100人程の人材を県内に就職するという目標をもって教育をし、山形県の為にも頑張らなければならないと思っている。皆様には、ぜひ活発なご意見をいただき、実りある審議会にしたい。

会長代理は、私が指名することになっているため、前回に引き続き柴田正孝委員にお願いしたいと考えている。

（会長代理席に異動）

（7）諮問

（市長から会長へ諮問）

（市長退席）

（8）議事

（審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となり進行）

会 長 それでは議事に入る。次第に沿って、一つずつ審議していく。本日の会議については、午前11時30分頃までに終了したいと考えているので、議事の運営につきまして委員の皆さんの御協力をお願いしたい。

① 会議等の公開について

（報道関係者退席）

事務局より資料1に基づき説明

- 会議の公開、非公開、部分秘の決定は審議会に委ねられている。特段の事情がない限り公開としていることから、本審議会もこれに準じ公開が原則と考える。
- 会議又は会議録等を非公開とする必要があると考えられる事案が出た場合は、改めて協議を行うものとする。非公開とする場合には、その理由を公表する。
- 会議録及び配布資料については、審議会事務局での閲覧、米沢市ホームページへの掲載等の方法により原則公開するものとする。本審議会においても、同様の扱いとし、広く市民に情報提供を行い、関心を持ってもらいたい。

会 長 この会議は開かれたものにすべきと思うので、事務局案のとおり会議を公開することとし、会議録及び配布資料についても公開する取扱いとしてよろしいか。

（異議なし）

（報道関係者入室）

② 米沢市まちづくり総合計画基本計画改定基本方針について

事務局より資料2に基づき説明

- 「ひとが輝き創造し続ける学園計市・米沢」を本市の将来像に掲げ、その実現に向けて執るべき施策の大綱と具体的な事業を定めたものであり、平成28年度から令和7年度までの10箇年間に於ける本市市政運営方針の基本的な方針であるとともに、市民主体のまちづくりを進める上での行動指針としている。
- 基本構想で示したまちづくりの実現に向け、具体的な施策の内容を定めた基本計画は、令和2年度までの前期5箇年間に於ける計画の進捗状況や社会情勢の変化を踏まえて見直すこととされているため、改定を行う。
- 将来像を「ひとが輝き創造し続ける学園都市・米沢」とする基本構想については、10年間変わらない構想となる。
- 基本構想の下にある基本計画において、現行計画の改定を行い、後期5箇年分を対象とする後期基本計画を策定する。基本計画では、基本構想を実現するための方向性や施策内容が述べられている。
- 基本計画の下には、より具体的な事業を定めた実施計画があり、現在は、第2期実施計画に基づき事業を行っている。なお、現在、令和2年度から開始する第3期実施計画の策定を進めている。
- 現在、前期基本計画の施策評価を実施しているため、その結果も踏まえ、後期基本計画を策定していきたい。
- 改定は、3つの視点「基本構想における将来像の実現を目指した計画」「社会経済情勢を踏まえた計画」「市民の参加による計画」に基づき行う。
- 改定体制としては、「米沢市総合計画審議会」「よねざわまちづくりフォーラム」「その他の市民意見等の集約体制（市民アンケートや、パブリックコメント、広報・HP等の活用）」を考えている。庁内体制としては、「総合計画策定会議」「総合計画作成プロジェクトチーム」「各担当課等」となっている。
- 改定は2年間をかけて行い、来年10月に答申をもらい、12月議会に上程する予定である。
- 審議会時のみに拘わらず、適宜ご意見をいただく体制をとるので、委員の皆様には、幅広い見識に基づくご意見をいただきたい。

会 長 来年10月の答申まで、1年以上あるためゆっくりご意見をいただきたい。

前回の総合計画策定時には、人口減少を喰い止めたいと考えていたが、今では人口減少は受け入れるしかない。人口減少の中で、持続可能な計画を策定していくことが必要だと思う。国連が提唱しているSDGs（持続可能な開発目標）等も参考にしながら、今回の計画では、人口減少の中で持続可能な計画をまとめていただければありがたい。

委 員 若い人が転出後、どのように考えているかを調査するアンケートが実施できないかと考えている。都会にいった後、後悔している人も多いようだ。住宅や教育など、都会の方がずっとコストがかかることは、実際に都会に行かないと気付かないことが多い。送り出す親も分かっていないことが多い。奨学金が返せなくなる人も多々見ている。ここで、都会に住むことのメリット・デメリットを、実際転出した人から聞くことが必要でないか。

会 長 山形大学工学部の学生で住民票を米沢市に移しているのは1割に満たないよう

だ。米沢市参与を務めた際、何とかしようとしたが、学生には何のメリットがあるのかと言われてしまい、うまくいかなかった。学園都市米沢として掲げているのに、山形大学の学生が米沢市民でないというのはいかななものかと思うので、今後の課題の一つとして、考えて欲しい。

委員 基本計画を見た時に、施策が30以上もあって総花的な感じが否めない。想定以上に人口減少が進む中で、施策に対しても集中や選択をし、米沢市としてここにフォーカスするという姿勢が必要でないかと思う。

事務局 行政であるため、様々な分野を網羅するというのが総合計画であるのご理解いただきたい。しかし、選択と集中ということでフォーカスしていくことが必要である。そのため、前期基本計画では、前期重点プロジェクトを掲げている。後期5年間でも同様に、重点的に取り組むものと考えていきたいので、皆様にもご意見をいただきたい。

委員 5年前とは、人口減少等の社会的な変化が大きい。例えば、産業分野についても思うように結果が出ていないと感じていて、そういった変化のアップデートが必要だと思う。地域格差の拡大・地域のサイズダウンは止められないため、色々なものを統合・共有化し、ボーダーを薄めていかなければ生き残れないのではないかと考えている。業界的にまとまっていく、地域的にまとまっていくという方向が必要でないかと思う。

③ アンケートの実施について

事務局より資料3・参考資料1に基づき説明

- 無作為抽出した18歳以上の市民3,000人、市内の高校に在学している高校3年生約1,000人のほか、山形大学工学部(4年生・修士2年生)・山形県立米沢女子短期大学(2年生)・山形県立米沢栄養大学(4年生)約1,400人を対象としたアンケートを実施する。
- 市民アンケートは、既に令和元年8月15日に送付、高校生アンケートは、9月～10月実施、大学生アンケートは10月に実施予定。
- アンケートの内容は、市民に対しては、暮らしの満足度(幸福度)と、現行計画に対する満足度・重要度について調査を実施。大学生・高校生には、暮らしの満足度(幸福度)と、将来の働き方・暮らし方について調査を実施予定。

会長 先程委員から提案があった転出者へのアンケートについて、事務局ではどう考えているか。

事務局 転出者アンケートについて事務局でも検討を進め、高校の校長会へ相談してみたものの、県外へ行かれた方の情報は、個人情報なので教えてもらえないとのことであった。そのため、進路を控えている高校3年生に将来の意向を聞きたいと考えている。

委員 転出した高校生の親御さん等に、了解を取って回答してもらうなど方法はあるので、実施は可能なのではないか。

事務局 市外に進学されているご家庭の把握は、高校を通じては難しいとのことであった。年齢を絞って市外に転出した方を対象に、アンケートを送付することについて今後検討してみたい。ただし、転出の理由も様々なので、有効な回答が得られ

るかは不明だが検討してみたい。

委員 手法としては、転入者に実施するというのも可能だと思う。ハローワークに協力を求める方法も考えられる。転出入者の意見は大切だと思うから、何とかアンケートを実施して欲しい。

事務局 今後、どのようにすれば転出者へアンケートが実施できるか、検討していきたい。

会長 うまく実施する方法があれば、追加のアンケートを実施して欲しい。

委員 大学生の息子のところに市民アンケートが来たが、息子のような若い世代の人に、例えば、高齢化問題や子育て問題について回答できるのか、得られた回答に有効性・信憑性があるのか疑問がある。

事務局 アンケートの結果については、集計次第委員の皆様にご報告していく予定である。若い方に、老後の生活を想定させるのは確かに難しいかもしれないが、クロス集計等を実施するなど、工夫して集計したいと考えている。

委員 昨年、川西から嫁いだ嫁が、アンケートを記入したものの、現行計画の施策評価についてはよく知らないため、分からないという回答ばかりになったようだ。現行計画の施策評価は、政策に精通してない方に実施しても有効性があるのかどうか疑問がある。

事務局 人によって、世代によって何を重要視しているかというのは当然異なるものだが、市民の方の一般的な傾向としてどのような部分を重要視しているのか掴むために、様々な分野において項目を設け意見を聞きたいと考えている。

会長 いずれにしても、アンケート集計結果が出てきた際には、その有効性等も含め、委員の皆様で検討していきたい。

委員 5年前の計画策定時にも、似たようなアンケートを実施したのか。

事務局 5年前も市民アンケートを実施しているが、今回は、現行施策の満足度・重要を新たに加えさせてもらっている。

委員 前回も似たようなアンケートを実施しているのであれば、今回のアンケートと比較し、前期計画の実施により市民の意見がどのように変わったのか比較することもできるのでないか。

事務局 全て同じ項目でないので完全に比較することは難しいが、似通った項目については、比較できるように検討したいと考えている。

委員 より実効性の高い計画として改訂するにあたり、市外へ流出した人の意見を聞くことは大切だ。友達の中にも、選択肢の多い都会へ仕事のため転出したが、子育てを機に戻りたいという人がいる。だが、なかなか戻ることには踏み切れないことが多い。そういった人たちに、ターゲットを絞ってアンケートを実施することが、より実効性の高い計画策定に向け必要でないか。

会長 これまでの意見を参考に、より良い計画を策定して参りたい。時間もないために、次の議題に進む。

④ よねざわまちづくりフォーラムについて

事務局より資料4・参考資料2に基づき説明

- 参加者は、各種団体からの推薦者及び公募による参加者を合わせて、30～

50名程度とする。

- 各種団体からの推薦者は、年齢制限を設けないが、公募については、18歳以上50歳未満の人（高校生を除く）とする。
- 公募については、従来の広報・市ホームページだけでなく、今回は、無作為抽出した500名の方に応募案内を送付し、今のところ7名の応募があった。
- フォーラムは、平日の夜に実施を予定しており、全4回実施する。10名前後のグループをつくり、意見交換をしてもらい、最終的には、グループごとに市の施策に対する意見をまとめ発表していただき、審議会にも提示し、計画に反映させていきたいと考えている。

会 長 まちづくりフォーラムは、前回も実施したようだが、市民の方から貴重な意見を頂ける有効な手法だと思う。

委 員 計画を策定するうえで、アンケート、フォーラム等に市民が参加する場合、ともするとぎょうせいへの要望になってしまい、それを元に計画を作ってしまうと、市民が評価者・コメンテーターになってしまう懸念がある。まちづくりフォーラムの際には、ただ意見を述べてもらうだけでなく、それを実現するには、どれぐらいの予算と時間がかかり、市民がどのようなことができるかという視点を持って議論していただくことが重要だ。

会 長 貴重なご意見だったと思うので、ぜひ反映させてもらいたい。

⑤ 次回審議会日程等について

事務局より説明

- 第2回審議会日程案をいくつか提示させていただいているので、各日程ごとに審議会委員の皆様のご都合を記入していただき、提出して欲しい。本日の提出が難しい場合は、電話・メールでの回答でも可能。できる限り、今月中の回答をお願いしたい。

会 長 皆様、日程調整をよろしくをお願いしたい。審議会で意見を言っていただく以外にも、メール等で事務局へ積極的に意見を伝えていただければと思う。

⑥ その他について

会 長 何か、ご意見のある方はお願いしたい。

委 員 至るところで、少子高齢化という言葉が使われているが、少子化と違い、高齢化自体は悪いことではない。高齢者が消費することにより、日本のGDPが保たれているのだから、高齢化が悪いという考え方自体を変えていく必要があるのではないか。

会 長 米沢から、高齢化というものを前向きに捉えるよう発信していければいいと思う。以上で、会議を閉会したいと思う。

5 閉会

以上